



建築用シート防水材料のメーカー団体

KRK (合成高分子ルーフィング工業会) <https://www.krkroof.net/>

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町9-2 日新中央ビル3F

TEL.03-6206-2928 FAX.03-6661-9034 E-mail:krkroof@krkroof.net

K R K 会 員

アーキヤマデ株式会社	〒564-0053 大阪府吹田市江の木町24-10 TEL.06-6385-1265 https://www.a-yamade.co.jp/
三晃金属工業株式会社	〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル TEL.03-5446-5606 https://www.sankometal.co.jp/
シバタ工業株式会社	〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾1058 TEL.078-946-1515 https://www.sbt.co.jp/
住ベシート防水株式会社	〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル TEL.03-5462-8960 https://www.sunloid-dn.jp/
田島ルーフィング株式会社	〒101-8579 東京都千代田区外神田4-14-1 秋葉原UDX21階 TEL.03-6837-8888 https://www.tajima.jp/
ニッタ化工品株式会社	〒556-0022 大阪府大阪市浪速区桜川4-4-26 TEL.06-6563-1206 https://www.nitta-roofing.com/
パーカーアサヒ株式会社	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-22-1 パーカーコーポビル1階 TEL.03-5614-9395 http://www.parker-asahi.co.jp/
ハセガワシート株式会社	〒276-0022 千葉県八千代市上高野1384-5 TEL.047-411-5014 https://www.sanAsheet.com
早川ゴム株式会社	〒721-8540 広島県福山市箕島町南丘5351 TEL.084-954-7801 https://www.santac.or.jp/
三ツ星ベルト株式会社	〒653-0024 兵庫県神戸市長田区浜添通4-1-21 TEL.078-685-5771 https://www.mitsuboshi.com/
ロンシール工業株式会社	〒130-8570 東京都墨田区緑4-15-3 TEL.03-5600-1866 https://www.lonseal.co.jp/

賛 助 会 員

アキレス株式会社 …… 03-5338-9544	タキロンマテックス株式会社 …… 03-5781-8150
亜細亜工業株式会社 …… 03-3895-4041	日本パワーファスニング株式会社 …… 06-6442-0059
株式会社カネカ …… 03-5574-8070	フィッシャージャパン株式会社 …… 03-3263-4491
株式会社JSP …… 03-6212-6362	株式会社ベルテック …… 06-6651-9194
株式会社シュナイダー・ジャパン …… 03-3537-3355	峰岸株式会社 …… 03-3274-1726
ソトウ株式会社 …… 045-322-0720	株式会社山装 …… 045-781-7821
倉敷紡績株式会社 …… 06-6266-5279	株式会社ライスター・テクノロジーズ …… 045-477-3637

KRK 2022

合成高分子ルーフィング工業会
<https://www.krkroof.net/>

シート防水材料に関する情報誌 vol.17



- | | |
|--------------|---------------|
| 1 ごあいさつ | 4 シート防水工法の紹介 |
| 1 KRKの概要 | 4 公共建築工事標準仕様書 |
| 2 KRKの活動 | 5 シート防水施工事例 |
| 3 シート防水の特長 | 9 トピックス |
| 3 シート防水材料の紹介 | 11 KRK会員名簿 |

KRK

ごあいさつ

合成高分子ルーフィング工業会会長

小山 利明

KRKは2022年5月時点で正会員11社、賛助会員14社で構成される防水シートのメーカーおよび賛助会員の団体であります。

JWMA(一般社団法人 日本防水材料協会)に於いては、アスファルト防水、合成高分子系シート防水、ウレタン塗膜防水、FRP塗膜防水、セメント系防水の部会で構成されますが、なかでも合成高分子系シート防水部会は諸官庁をはじめ建築学会等との交流参画を長年密接に行い、防水業界の発展や仕様書策定などに率先垂範して参りました。

さて、昨今世界情勢の不安定は、気候変動の新たな領域への



突入と共に、原材料・食糧不足から飢餓貧困がさらに蔓延し、殆ど全ての製品が高騰する異常事態の様相を呈しております。また、新型コロナも、まだまだ予断は許しません。

ところでKRKは2014年の出荷をピークに減少し、ウレタン塗膜防水に次ぐ出荷実績に甘んじております。これからも防水材料の工法仕様開発や耐久性能の向上かつ持続可能な防水材料の開発などを継続し、JWMAのなかで「協調と切磋琢磨」を信念に、ナンバーワンの年間実績に返り咲くことを切望する次第です。

KRKの概要

KRKの歴史と実績

KRKはシート防水の品質向上と施工技術の標準化に積極的に取り組んでいます。

歴史

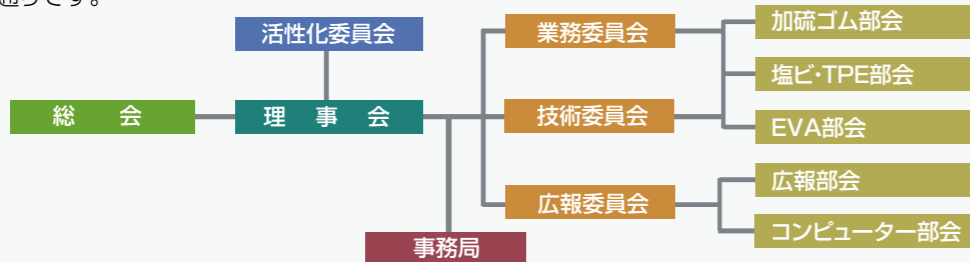
KRKは1970年にシート防水材料のJIS規格制定を契機に設立された「合成高分子ルーフィング懇話会」を母体として1978年現在の工業会組織に改組し、53年の歴史を歩んでまいりました。JIS規格の改正、公共建築工事標準仕様書の改定、日本建築学会の研究活動参画など幅広く活動してまいりました。

実績

KRKは製品や工法の革新にむけ、常に意欲的に取り組んで来ました。建築業界を取り巻く激しい環境の変動にも柔軟に対応し、新築工事だけでなく改修需要への対応や新しい仕様の開発、施工技術の平準化等に取り組んでいます。

KRKの構成

KRKは防水シートの優良メーカーで構成されており、組織は以下の通りです。



[賛助会員広告]

新製品 ナイロンプラグの性能を最大に引き出す
ハイブリッドビス
実用新案取得
フルシダー社日本総代理店
峰岸株式会社

株式会社 山装 YAMASO
長年のノウハウを生かして、独自の高い技術力で防水資材製品を製造・販売しております。
●お問い合わせ先●
TEL:045-781-7821/FAX:045-781-7824

KRKの活動

KRKは関係各方面のご支援を賜り、活発な活動を展開しています。

官公庁への協力

- 公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書改定、建築工事監理指針及び建築改修工事監理指針改定への協力

日本建築学会における活動

KRKは日本建築学会活動にも積極的に取り組んでいます。

- **JASS8改定作業への協力**
- **2021年日本建築学会WG活動**
 - ・ 防水材料の長期耐久性性能試験方法小委員会
 - ・ 地下外壁防水仕様評価小委員会
 - ・ 寒冷地防水研究WG
 - ・ 既存防水層耐風性能評価研究WG
- **2021年度日本建築学会東海大会への参加(オンライン開催)**
テーマ：ポリマーセメントペーストを用いたシート防水構法に関する研究 第7報～第10報



KRK会員向け研修会

- **2021年度研修会(於:東京、大阪)**
テーマ：シート防水採用事例のご紹介
加硫ゴムシート防水改修マニュアル改訂版のご紹介
寒冷地防水の現状と課題
賛助会員会社製品紹介：(株)ライスターテクノロジーズ

KRKの出版物

KRKはシート防水の品質向上のため、施工マニュアルやパンフレット、技術資料、仕様書、規格書など発刊物を作成しています。

- KRK シート防水マニュアル(2017年改訂)
- シート防水マニュアル(金属下地断熱機械的固定工法)(2022年改訂)
- エチレン酢酸ビニル樹脂(EVA)系シート防水マニュアル(2021年改訂)
- 塩化ビニル樹脂系シート防水改修マニュアル(2020年改訂)
- 加硫ゴム系シート防水マニュアル(2016年改訂)
- 高反射率防水シート KRK規格
- KRK合成高分子ルーフィング工業会 50年の記録
- KRK広報誌(2006-2021)
- シート防水Q&A
- 加硫ゴム系シート防水(2018年改訂)
- 塩ビ・TPE シート防水(2018年改訂)
- EVA系シート防水(2018年改訂)
- 防水層の維持管理上のご願い(2022年改訂)



● マニュアル ● 規格 ● その他 ● パンフレット

[賛助会員広告]

ディスク固定用スクルー
大きさ・薄さ
長さ
下地対応力
JPE 日本パワーファスニング株式会社
東京証券取引所 第2部 コト 3850
TEL:03-3639-2600

ソトウ株式会社
スイス、EU 諸国 各メーカー 防水シート用融着機
輸入販売・修理サービス
・熱風手動融着機 (BAK社 リオンS/リオンデジタル型)
・熱風自動融着機 (BAK社 ラロン型、プラノン型)
・施工用工具、付属部品
TEL 045-322-0720

シート防水の特長

シート防水材の特長を上手く生かすことで、信頼性の高い防水層を実現しています。

均質な防水層を形成します
品質管理された工場において、シート状に製造されているため、物性・寸法(厚さ・幅・長さ)などのばらつきが少なく、均質な防水層を形成します。

耐久性に優れています
使用している材料は、耐候性・耐水性・耐熱性等に優れるため、露出でも優れた耐久性を発揮します。

下地の挙動に追従します
伸び率に優れ、下地の挙動に追従します。

工期短縮OK
防水シート
屋上等
工程が少なく、工期短縮が図れます
シート防水はシングルプライ(一層防水)のため、工程が少なく、工期短縮が図れるほか、工程管理が容易になります。

かぶせ工法が可能です
改修工事の際、既存防水層を撤去せず、新規シートをかぶせて施工できます。

土木工事OK
用水路等
土木工事にも採用されています
処分場、貯水池、用水路などの遮水・防水工事に採用されています。

シート防水材の紹介

加硫ゴム系シート

- 低温、高温の広い温度範囲にわたって安定している。
- 多様な下地材料に適用し、改修工事にも適している。
- 引張強さ、伸び特性が大きく、下地亀裂追従性、繰返し伸縮などに優れている。

塩化ビニル樹脂(PVC)系シート

- ルーフィングシート相互は熱融着あるいは溶剤溶着で接合でき、一体化する。
- 耐圧縮性、耐摩耗性に優れているため、軽歩行ができる。
- 防水層は自己消火性を有しており、延焼しにくい。

エチレン酢酸ビニル樹脂(EVA)系シート

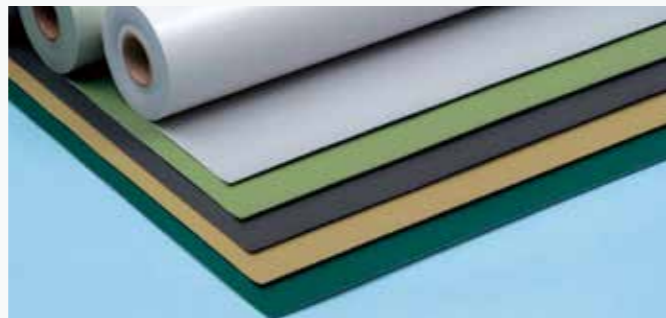
- 可塑剤を含有しない、もともと柔軟な素材である。
- 引張強さ、引裂き強さ、伸び特性が非常に大きく、下地亀裂追従性や繰返し伸縮などに優れている。
- コンクリートやモルタル等と強固に密着する。
- 防水層端末部に押え金物を使用しない。

非加硫ゴム系シート

- シート防水層自体の収縮する力が弱く、浮きや接合部のズレなどが発生しにくい。
- ルーフィングシート相互の接着接合性が良好で一体化する。
- ルーフィングシート自体が柔軟で、複雑な形状の下地になじみやすい。

熱可塑性エラストマー(TPE)系シート

- ルーフィングシート相互は熱融着で接合でき、一体化する。
- ハロゲン、可塑剤類を含まないので、物性変化が少なく環境汚染や人体への影響が少ない。



[賛助会員広告]

Kaneka カガクでネガイをカナエル会社

カネライトフォーム FX

JIS A 9521 押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bD

熱伝導率 **0.022** W/(m・K)

建材トップランナー制度対象製品
(区分名: 押出法ポリスチレンフォーム断熱材)
2022年度目標値 熱伝導率 0.0232 W/(m・K)
※住宅金融支援機構掲載の断熱性能における
【記号別の断熱材の種類と規格】による記号

株式会社 **カネカ** Foam & Residential Techs Solutions Vehicle 株式会社 **カネカケンテック株式会社** 営業本部 住環境営業部
東京都千代田区内幸町1-3-3 TEL.03(3596)7011

The Schneider Corp.(Japan)Ltd.
Phone: 03-3537-3355

aerosmith

シート防水工法の紹介

接着工法

- 加硫ゴム系
- 塩化ビニル樹脂系

ルーフィングシートを接着剤を使用して下地に張り付ける工法で、シート防水の初期の頃から採用されているベーシックな仕様です。下地に全面的に接着されていますので、耐風性に優れ、作業性もよく大面積を比較的短期間に施工できます。下地の乾燥など下地条件に注意が必要です。



機械的固定工法

- 加硫ゴム系
- 塩化ビニル樹脂系
- 熱可塑性エラストマー系

ルーフィングシートを固定金具を用いて下地に固定する工法です。接着剤を使用しないので接着に必要な要素が除外されるため、改修工事や下地条件の厳しい場所などに採用されています。建築基準法に基づき定められた風圧力計算により耐風圧性に配慮した固定金具の設置が必要です。



密着工法

- エチレン酢酸ビニル樹脂系

ルーフィングシートをポリマーセメントペースト等を用いて下地に密着させる工法です。ルーフィングシートと下地との間に密にポリマーセメントペーストが介在することで、水の通り道を作りません。下地の乾燥が不要で保護層を薄く仕上げたい室内防水や地下防水、屋上防水に最適です。



公共建築工事標準仕様書(令和4年版)

工法	接着工法				機械的固定工法			
	S-F1		S-F2		S-M1		S-M2	
種別	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3) ^{(注)1}	— (プライマー塗り)	— (0.3) ^{(注)1}	—	—	—	—
2	接着剤塗布	0.4 ^{(注)2}	—	—	—	—	—	—
3	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.2mm)張付け	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート ^{(注)3} (1.5mm)張付け	—	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート ^{(注)3} (1.5mm)の固定金具による固定	—
4	仕上塗料塗り ^{(注)4}	—	—	—	仕上塗料塗り ^{(注)4}	—	—	—

- (注)
1. ALCパネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 2. S-F1で粘着層付又は接着剤付加硫ゴム系ルーフィングシートを使用する場合は、工程2の接着剤の使用量は製造所の仕様による。
 3. S-F2及びS-M2で特記により軽歩行仕様とする場合は、ルーフィングシートの厚みは2.0mmとする。
 4. S-F1及びS-M1の場合、仕上塗料の種類及び使用量は、特記がなければ、非歩行仕様とし、使用量は、ルーフィングシートの製造所の仕様による。

工法	接着工法				機械的固定工法			
	SI-F1		SI-F2		SI-M1		SI-M2	
種別	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.2 (0.3) ^{(注)1}	— (プライマー塗り)	— (0.3) ^{(注)1}	—	—	—	—
2	接着剤/断熱材	—	—	—	断熱材 ^{(注)2}	—	断熱材 ^{(注)2}	—
3	接着剤塗布	0.4 ^{(注)6}	—	—	—	—	可塑剤移行防止用シート敷設 ^{(注)5}	—
4	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.2mm)張付け	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.5mm)張付け	—	加硫ゴム系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—	塩化ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.5mm)の固定金具による固定	—
5	仕上塗料塗り ^{(注)7}	—	—	—	仕上塗料塗り ^{(注)7}	—	—	—

- (注)
1. ALCパネル下地の場合は、工程1のプライマー使用量を()内とする。
 2. SI-M1及びSI-M2の場合、防湿用フィルムの設置は特記による。
 3. 工程2の断熱材張付けに用いる接着剤の使用量は、ルーフィングシートの製造所の仕様による。
 4. 断熱材は、立上り際でルーフィングシートの製造所の仕様により固定する。
 5. SI-M2で断熱材が硬質ウレタンフォーム断熱材を用いる場合は、工程3を行わない。
 6. SI-F1の場合で粘着層付又は接着剤付加硫ゴム系ルーフィングシートを使用する場合は、工程3の接着剤使用量は、製造所の仕様による。
 7. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量はルーフィングシートの製造所の仕様による。

工法	屋内保護密着工法	
種別	S-C1 ^{(注)1}	
工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)
1	プライマー塗り	0.3
2	接着剤(ポリマーセメントペースト)塗布	3.0
3	エチレン酢酸ビニル樹脂系ルーフィングシート(1.0mm)張付け	—
4	保護モルタル塗り ^{(注)2}	—

- (注)
1. S-C1については、屋内防水に適用する。
 2. 工程4の保護モルタル塗厚は、特記による。

シート防水施工事例

学校法人名古屋電気学園 愛知工業大学鉦徳館 屋根 部分防水工事
加硫ゴム系シート防水接着工法（金属下地）



石巻市震災遺構 門脇小学校
加硫ゴム系シート防水接着工法（金属下地）



都立大島高等学校（31）武道棟屋根防水その他工事
塩化ビニル樹脂系シート防水接着断熱工法（金属下地）



協同建材株式会社
加硫ゴム系シート防水通気緩衝接着工法（ALC下地）



[賛助会員広告]

機能性素材
「クレネット®」

- 効率的に強度発現
- 母材同士が強固に接着
- 機能性付与も可能

KURABO 環境マテリアル部 機能資材課 TEL: 06-6266-5279

漏水被害に備える

タキロンシーアイグループ

軽量パネル止水板 **フラッドセーフライト**

お問い合わせ タキロンマテックス株式会社 東京支店 03-5781-8150

[賛助会員広告]

屋上設備基礎 革命!コンクリートから鋼製へ

工期短縮・軽量化工法

ベルベース

株式会社ベルテック

限界を超越した断熱性能!!

高性能・新次世代型断熱材

ミラフォーム

押出法ポリスチレンフォーム断熱材 [JIS A 9521・XPS3aD]

熱伝導率 **0.022 W/m・K (23℃)**

株式会社 JSP 建築土木資材事業部 TEL.03-6212-6362

高嶺の森のレセプション
塩化ビニル樹脂系シート防水接着工法（木下地）



撮影者：山下貴成建築設計事務所

丘の上のグループホーム
塩化ビニル樹脂系シート防水機械的固定（屋根）・接着（庇）工法（木下地）



撮影者：SOGO建築設計



● 表紙写真：門川町庁舎（屋上）

設計：株式会社 梓設計
 施工：吉原・森特定建設工事共同企業体
 延床面積：5,751㎡
 所在地：門川町
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造（免震構造）
 防水仕様：エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水保護断熱密着工法

竹中工務店 札幌支店 北海道地区 FM センター
塩化ビニル樹脂系シート防水機械的固定断熱工法（木下地）



十勝まきばの家
塩化ビニル樹脂系シート防水機械的固定工法（樽下地）



東京女子医科大学 巴研究教育棟
エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水保護断熱密着工法（コンクリート下地）



[賛助会員広告]

LEISTER

クラウド機能搭載
「新型自走機ユニルーフ 700 型」 発売予定

株式会社ライスター・テクノロジーズ
www.leister.com

JIS A 6008 の改正について

令和4年3月22日に「JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート」が改正されたので、その概要を取りまとめた（令和5年3月21日までの間は、JIS A 6008：2006 を適用してもよいことになっている）。

改正の背景

合成高分子系ルーフィングシートの規格は、合成高分子系のルーフィングシートが普及し始めたことから、1969年に「JIS A 6008 合成高分子ルーフィング」が、1970年に「JIS A 6009 基布その他を積層した合成高分子ルーフィング」が制定された。その後、1992年に両規格を統合し、「JIS A 6008 合成高分子系ルーフィングシート」として改正された。

2002年の改正では、新しい種類の素材である熱可塑性エラストマーを用いたルーフィングシートが普及したことによって、規格が見直された。また、2006年には追補改正が行われた。

今回、前回の追補改正（2006年）から15年が経過し、その間に、使用者、試験実施者などから一般複合タイプの引張強さの算出方法に疑問点が指摘されていたため、原案作成委員会で実状に即した算出方法を審議していただき、今回の改正に至った。

改正の概要

改正のポイントは、複合シートのうち一般複合タイプの引張強さの算定位置を、“最大荷重”から“母材破断時の荷重”へ変更した点である。

【改正の必要性】 一般複合タイプの主要特性の一つである引張性能試験に関して、現行規格（2006年改正）では、引張強さは「最大荷重」時の強度、伸び率はシート（母材）破断時の標線間の伸びによって算出することになっていた。しかし、その試験プロセスにおいて、一部の一般複合タイプでは「最大荷重」は、母材破断時に示す場合と基布破断時に示す場合があったため（「最大荷重」は解説図1の場合と解説図2の場合がある）、伸び率は常に母材破断時の伸びによって算定していることから、引張強さは母材、伸び率は基布の破断時の測定値となり、異なる位置での測定値による算定が生じていた。

【改正ポイント】 一般複合タイプの基布の使用目的（シート全体の寸法安定性、力学的性質の改善）及び防水層のひび割れ抵抗性を考慮して、実状に即した算出方法として、引張強さの算定は、「最大荷重」ではなく、「伸び率の算定」と同じ算定位置となる「母材破断時の荷重」によって算定することが重要、かつ合理的であるとの結論に至ったことから、一般複合タイプの引張性能を適切に評価できるようにするため、引張強さの算定位置を変更するなど、JIS を改正することとなった。また、基布破断時の「最大荷重」は、試験片中の繊維の本数の影響を受けるため、ばらつきが多かったという弊害もあったが、最大荷重として母材破断時の荷重とすることによって、ばらつきの問題も回避できることとなった。

主な改正点

主な改正点は、次のとおりである。

a) 引用規格（簡条2）

発行されている最新規格を引用した。また、規格の

名称変更についても最新のものとした。

b) 用語及び定義（簡条3）

“複合シート”、“一般複合タイプ”及び“補強複合タイプ”の各用語について、用語の定義を明確にするため見直した。

c) 種類（簡条4）

工法の適用が不明瞭であったため、簡条4の表1に工法の適用を追加し、“接着工法”なのか“機械的固定工法”なのかを明確にした。

d) 一般複合タイプの引張性能（簡条8）

複合シートのうち一般複合タイプの引張性能について、測定荷重を“最大荷重(N)”から“母材の破断時の荷重(N)”に改めた。温度依存性も同様に、一般複合タイプの引張強さ(60℃)の測定及び算出方法について、測定荷重を“最大荷重(N)”から“母材の破断時の荷重(N)”に改めた。同時に、均質シートについても、一般複合タイプとの用語の統一を図るため、“最大荷重(N)”を“均質シートの破断時の荷重(N)”に改めた。

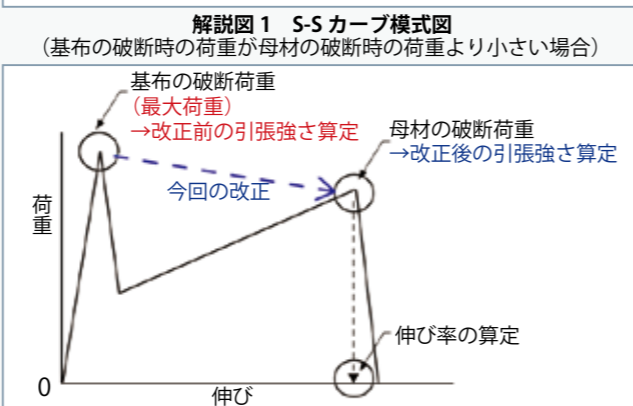
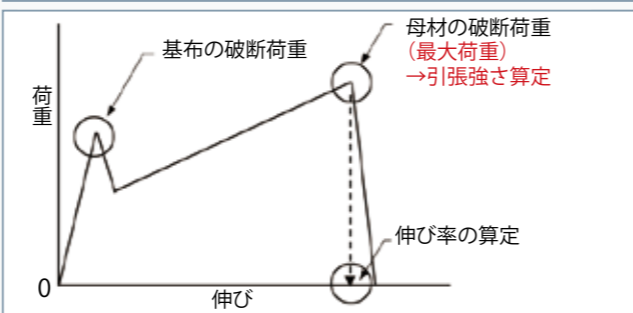
e) 検査（簡条9）

検査を形式検査と受渡検査とに区分し、各検査項目を規定した。

f) 表示（簡条10）

製品への表示を“促進暴露処理及びオゾン処理試験実施の有無”から“用途による区分”に改めた。

$$\begin{aligned} \text{引張強さ (N/cm)} &= \frac{\text{最大荷重 (N)}}{\text{試験片の幅 (0.5cm)}} \rightarrow \text{現行} \\ &\downarrow \\ &= \frac{\text{母材の破断時の荷重 (N)}}{\text{試験片の幅 (0.5cm)}} \rightarrow \text{改正後} \end{aligned}$$



原案作成委員会で特に審議された事項

a) 一般複合タイプの引張性能（簡条8）

試験方法の見直しに当たり一般複合タイプについて、基布破断後、母材破断までに防水性があるかどうかを検証する必要があるとの指摘があった。そこで、一般複合タイプの加硫ゴム系シートでは300%の伸び率を付与した状態で、一般複合タイプの塩化ビニル樹脂系シートでは150%の伸び率を付与した状態で、各々、漏水試験（水頭80cm）を行い、漏水しないことを確認した。

b) 検査（簡条9）

検査項目の区分については、JIS 認証を受けている製品工場の実態調査及び検査に対する工場の意見を集約すべきとの指摘があった。そこで、製品工場の実態及び意見をアンケート調査で確認し、形式検査と受渡検査とに区分した。受渡検査項目は、防水

材として最低限必要と考える引張性能、厚さ、外観の3項目とした。

c) 表示（簡条10）

1992年の改正で、“促進暴露処理及びオゾン処理試験実施の有無”の表示を露出用途に用いるときの判断に供するために追加したが、“促進暴露処理及びオゾン処理試験実施の有無”の表示が、露出防水用のルーフィングシートに限定していることが分からないとの指摘を受け、今回の改正で表示内容を“用途による区分”に改め、用途が“露出防水用”なのかまたは“非露出防水用”なのかを表示することとした。

d) 用語及び定義（簡条3）

1997年の改正で、簡条3において用語の定義がなされたが、使用者からは分かりにくいとの指摘を受け、今回の改正で内容の見直しを行った。

JASS 8 の改定について

2022年2月に日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 8 防水工事」が改定されたので、その概要を取りまとめた。

改定の概要

2022年版では、2014年版までの材料・工法から、形状・施工法の視点で見直しが行われた。

2014年版 防水材料による節立て	
1節	メンブレン防水工事 ○アスファルト防水工事 ○改質アスファルトシート防水工事 ○合成高分子系シート防水工事 ○塗膜防水工事
2節	ステンレスシート防水工事
3節	ケイ酸質系塗布防水工事

2022年版 形状と施工法による節立て	
1節	面防水工事 ■面材張付け防水工事 ○合成高分子系シート張付け防水工事・接着仕様/密着仕様 ○改質アスファルトシート張付け防水工事 ■面材固定防水工事 ○合成高分子系シート固定防水工事・機械的固定仕様 ○ステンレスシート防水工事 ■不定形材塗布・吹付け防水工事 ○塗膜防水工事 ○セメント系防水工事 ■面材・不定形材積層防水工事 ○アスファルト防水工事

面材張付け防水工事並びに面材固定防水工事に掲載された合成高分子系シートの標準仕様は以下のとおりである。

【標準仕様】

(1) 面材張付け防水工事

- ・加硫ゴム系シート防水工法・接着仕様（S-RF）
- ・加硫ゴム系シート防水工法・断熱接着仕様（S-RFT）

- ・塩化ビニル樹脂系シート防水工法・接着仕様（S-PF）
- ・塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱接着仕様（S-PFT）
- ・エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水工法・密着仕様（S-PC）

(2) 面材固定防水工事

- ・加硫ゴム系シート防水工法・機械的固定仕様（S-RM）
- ・加硫ゴム系シート防水工法・断熱機械的固定仕様（S-RMT）
- ・塩化ビニル樹脂系シート防水工法・機械的固定仕様（S-PM）
- ・塩化ビニル樹脂系シート防水工法・断熱機械的固定仕様（S-PMT）

【参考仕様】 ※参考資料「面防水工事の標準仕様以外で防水設計上参考となる仕様」標準仕様は、建築防水の設計、施工に際して目標性能やそれを具体化する技術的手段に関する標準モデルであるのに対し、建築物の種類の多様化、建築を取り巻く環境の変化という観点から、防水性能、適用部位、施工法、環境配慮および省力化に特徴的な仕様として、標準仕様とは別に、16種の防水仕様が参考となる仕様として紹介されている。そのうち、合成高分子系シートとしては、5種の防水仕様が紹介されている。

(1) 面材張付け防水工事

- ・合成高分子系シート防水工法・絶縁仕様
- ・エチレン酢酸ビニル樹脂系シート防水工法・密着保護仕様

(2) 面材固定防水工事

- ・合成高分子系シート防水工法・金属下地断熱機械的固定仕様
- ・熱可塑性エラストマー系シート防水工法・機械的固定仕様
- ・熱可塑性エラストマー系シート防水工法・断熱機械的固定仕様